



学校と家庭を結ぶ

CJSNZたより

カンタベリー補習授業校

平成30年9月29日

TEL 03-348-9512

[www.cissnz.org](http://www.cissnz.org) [admin@cissnz.org](mailto:admin@cissnz.org)

## 平成30年度 前期修了



2学期が終わりました。早いもので、1年の半分が過ぎました。本日、「あゆみ」を子どもたちに手渡しました。形式的な言い方をしますと前期間中の通知表で子どもに対しての「評価」です。週一回の補習校で、子どもの評価を出すことは、大変至難の

業です。我々教職員も、こんな評価で良いのだろうか、悩みながらつけています。でも学校と名の付くところで評価を出すことは我々の責務であり、たとえ週に一回であったとしても、子どもの良い点は褒め、課題点を指摘して改善を促すことは、子どもの成長にとっては大変重要なことだと捉えています。終業式の時にも、直接子どもたちにも言いましたが、先生方は心を込めて「あゆみ」を書いています。ひょっとしたら、「良薬口に苦し」のごとく、喜ぶべき事ばかりではなく、後期への課題が書かれている場合もあります。一人ひとりの事を考えながら、後期にはこのようになってほしいという期待の表れです。保護者の皆様も、お子様とともに一緒に「あゆみ」を媒介として、お話をし頂けると有り難いです。これから3週間の春休みになります。その事を念頭に置きながら、春休みを過ごしてくれると嬉しいです。



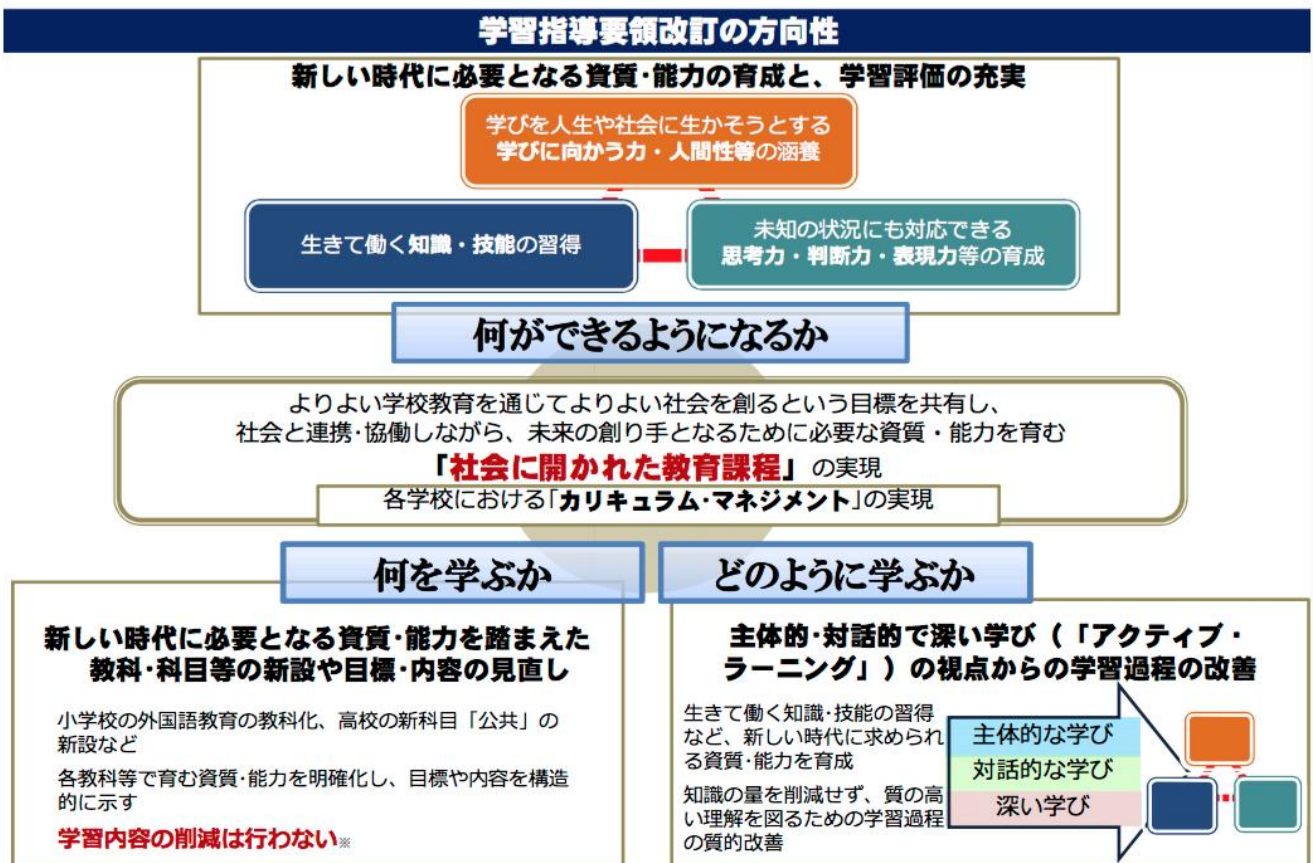


先週保護者委員会の皆さんが、児童生徒のために月見団子を作って下さいました。2校時終了までに間に合わせようと随分前から準備をなさっていました。大変美味しく頂きました。本当に有難うございました。

## 「学習指導要領」(文部科学大臣が示した教育課程基準)

日本の幼稚園・小学校・中学校・高等学校のそれぞれの学年での教科内容の基準を示したものです。社会の状況に応じておよそ 10 年毎に見直しが行われます。今回、小学校では新学習指導要領が 2020 年から完全実施になります。現在、日本の学校では、それに伴っての移行措置が実行中です。図右下の「アクティブ・ラーニング」はニュージーランドでの教育「学び合い」に似たような学習スタイルのようです。

これまでの学習指導要領は「教員が何を教えるか」ということが中心でしたが、新学習指導要領では「子どもが何ができるようになるか」というのがポイントです。



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。